

3-16 野草堆肥・野草牛ふん堆肥による地域内資源循環・農耕維持の取組

(農事組合法人草原再生オペレーター組合(事務局NPO法人九州バイオマスフォーラム))

- 農事組合法人草原再生オペレーター組合(事務局NPO法人九州バイオマスフォーラム)は、熊本県阿蘇地方の広大な原野にある野草(ススキ等)を堆肥原料としての活用を推進。野草のまま発酵させ堆肥化、牛ふん等と混合して堆肥化するなど利用者の状況に応じて活用され、地域内資源循環・農耕維持に貢献。

国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

- ・野草
- ・牛ふん
- ・鶏ふん
- ・米ぬか など

- 【一般販売されている野草牛ふん堆肥の例】
- 「野草堆肥」(阿蘇市高品質堆肥製造施設)
乳牛糞と阿蘇の野草を使って生産した上質の堆肥。水稲から施設園芸まで幅広く使用されている。平成19年度熊本県堆肥共励会で上位入賞した。
 - 「高森オーガニック」「風まる」(阿蘇高森オーガニック・アグリセンター)
1年刈り干した野草と牛ふん・鶏ふんを混合して堆肥化。野草は全体の3割。

■ 作物

- ・トマト
 - ・アスパラガス
 - ・花卉
 - ・ショウガ など
- 多様な作物に利用

■ 主成分の含有量 (%)

○ 「阿蘇市高品質堆肥製造施設」の場合

N	P	K	苦土	石灰
1.03	0.98	1.39	0.77	1.85

■ 取組の経緯・内容

取組の経緯

熊本県阿蘇地方は、広大な原野を有し、古くから野草を刈りとることにより、草原を維持し野草の利用は地域内資源循環・農耕維持に不可欠。草原の野草(主にススキやネザサ等)を刈り取り、ロールまたは堆積して野外で半年~1年以上熟成させた野草堆肥、これらを牛ふんと混合して堆肥化した野草牛ふん堆肥を主に農家が製造し畑に使用してきた。近年、牧野組合の減少により管理された原野(野焼き)が減少していることから、阿蘇地方の草原のを維持、地域内資源循環体制を再構築が課題。

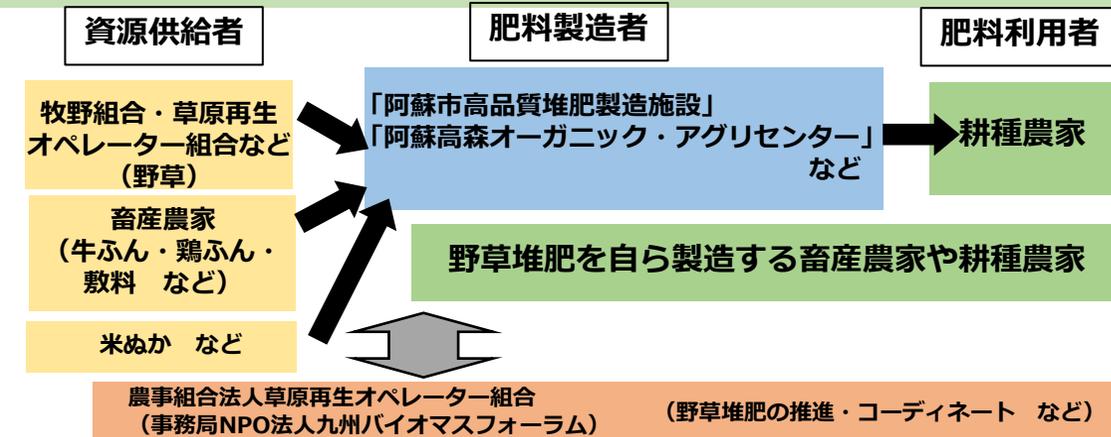
取組の内容

農事組合法人草原再生オペレーター組合(事務局NPO法人九州バイオマスフォーラム)が中心となり、野草堆肥の優良事例紹介・利用マニュアルの整備等野草の堆肥化・利用の推進を図っている。また、野草堆肥・野草牛ふん堆肥利用による効果についても、科学的根拠(善玉菌の存在)が明らかになりつつある。

<野草堆肥の効果等>

- ・原料であるススキは、ケイ素を多く含んでおり、茎や葉を丈夫にする。
- ・繊維質が多く土壌が団粒構造となり、排水性・保水性・通気性が良くなる。
- ・窒素成分が他の堆肥に比べても少なく、排水性もよくなることから、農作物に適度なストレスがかかり食味向上が期待できる。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・野草堆肥を含め、阿蘇の草原がもたらす恵みである「野草」の良さを多くの農家に知っていただき、広域的な取組に繋げてく必要。
- ・野草堆肥が利用されている農産品のブランド化(世界農業遺産・草原再生)。
- ・野草堆肥に不可欠な野焼きの安全性を高めるため、未利用草地の多い牧野に協力を呼びかけ、採草面積を拡大し、生産量拡大と効率化を推進。



野草の収穫作業



野草ロール